

## 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立巨勢小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童 34名

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

### ■ 調査結果及び考察について

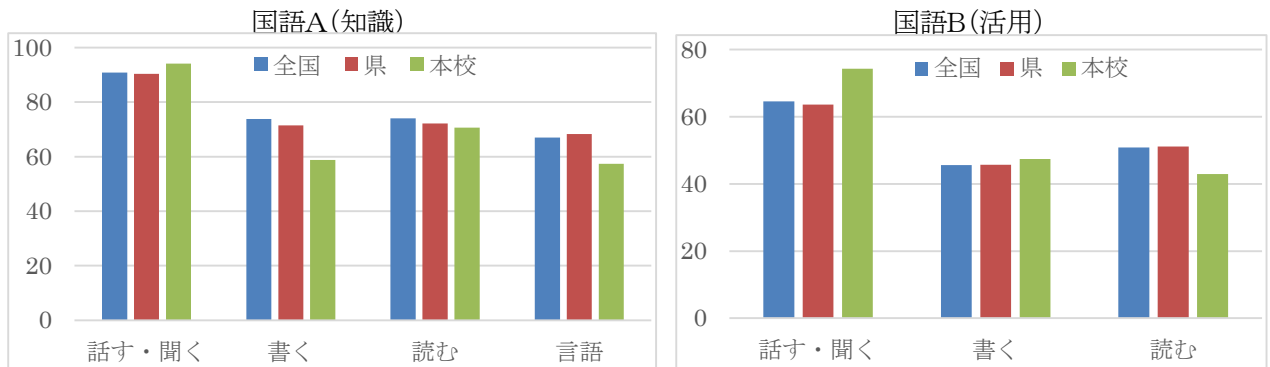
全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



「話す・聞く」の領域で、国語A・B問題ともに全国・県平均を上回っている。また、B問題の「書く」領域でも全国・県平均を上回っている。「読む」領域と「言語事項」領域については、全国・県平均を下回っている。

#### (2) 成果と課題

##### 話す・聞く

・相手や目的に応じ、事例などを挙げながら筋道を立てて話す問題は、正答率が全国・県平均を上回っている。授業や行事等で日頃から相手に分かりやすい話し方の指導、話す観点や聞く観点を意識して取り組ませている話し合い活動の成果が表れているので、継続して指導していきたい。

##### 書く

・内容の中心を明確にして詳しく書く問題は、正答率が全国・県平均を上回っているが、文章全体の構成の効果を考える問題の正答率は低い。書く活動を授業の中で仕組み、個別の指導を図っていく必要がある。また、文章構成を理解させたり、条件作文等に取り組みせたり等、書く活動の日常化を図っていきたい。

##### 読む

・文章の内容を押さえ、自分の考えを明確にしながらかく問題は、正答率が全国・県平均を上回っているが、必要な情報を捉えたり、複数の資料の内容を関連付けて読んだりする問題の正答率は低い。他の資料の情報を取り入れながら、多様な視点から読み進めていく活動を取り入れていく必要がある。

##### 言語事項

・漢字や敬語、慣用句の意味を問う問題の正答率は、全国・県平均を下回っている。語彙や語句を獲得するために、国語辞典や漢字辞典を使って調べる活動を取り入れていく必要がある。また、スキルタイムや家庭学習の内容の充実を図り、言語力や語彙力の向上に努めていきたい。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 朝の読書や読み語りに取り組むことで、本に親しんだり、落ち着いて学習に臨んだりできるようにします。
- 授業をはじめ様々な行事などでも、考えを表現し意見交流する場を数多く設定し、相手の話の主旨を正確に捉え、自分の意見を表現できるコミュニケーション力を高めていきます。
- 自分の考えをノートに書き表す場面では、相手に伝える意識を持たせ、より分かりやすく考えをまとめる力の習得をめざします。

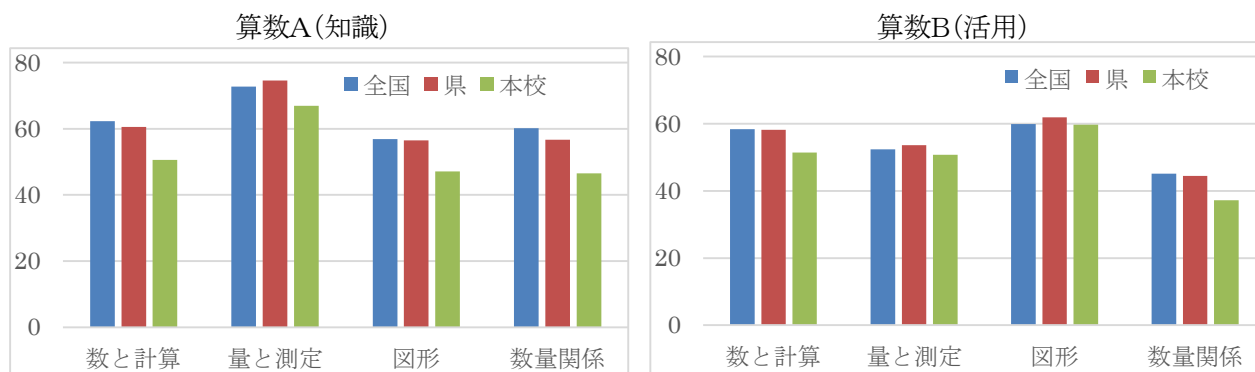
##### 【ご家庭では】

- まずは音読が基本です。音読を毎日聞いてあげましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書のジャンルを広げてあげましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

## 2 算数

### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題、活用力を問うB問題とも全領域で、全国・県平均を下回っている。問題形式ごとの正答率では、理由や方法を記述する問題で、考えを筋道立てた適切な記述ができていない傾向が見られた。

### (2) 成果と課題

#### 数と計算

・小数のわり算問題や3桁の数を大小比較する問題の正答率が、全国・県平均を下回っている。数直線を利用して数量関係を可視化して、小数の計算の意味を理解させていく必要がある。また、日常事象の数に着目させ、構成や大小比較を考えさせるなどして数感覚を身に付けさせることも重要である。

#### 量と測定

・混み具合や単位量に関する問題、角の大きさに関する問題の正答率が、全国・県平均を下回っている。単位量を設定することで比較できることを、図・言葉・式と関連付けながら理解させる必要がある。また、角の概念など確かな量感を培うために、任意単位による測定の経験を積み重ねる必要がある。

#### 図形

・円周率や直径の長さや円周の長さの関係に関する問題、敷き詰め模様の中から図形を見いだす問題の正答率が低い。算数的活動を通して、直径と円周の長さの関係を確かな理解に結び付ける必要がある。図形の見方を一つだけでなく、多様な見方ができるように具体的操作を重視して指導していきたい。

#### 数量関係

・グラフから読み取ったことに基に判断する問題や条件を変更した場合の数量関係を、表現方法を適用して記述する問題の正答率が低い。グラフを単純に見比べるだけでなく、多様な視点で考えさせることが大切である。また、記述問題の無回答率が高く、示された情報を図に表したり問題解決に関係のある数量を取り出して表に整理したりするなどして、問題を理解させる必要がある。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 朝のはげみタイムでは、四則計算や授業の復習問題に取り組んだり、月1回の朝テストや帰りの会で行うすっきりテストなどを活用したりしながら、基礎基本の定着や児童の日々の学習に対するやる気が向上するように努めていきます。
- 授業では、友だちの意見を繰り返して言ったり、言い換えたり、付け加えたりまとめたりする言語活動を多く取り入れ、みんなで理解を深める話し合い活動を全学級で実践します。

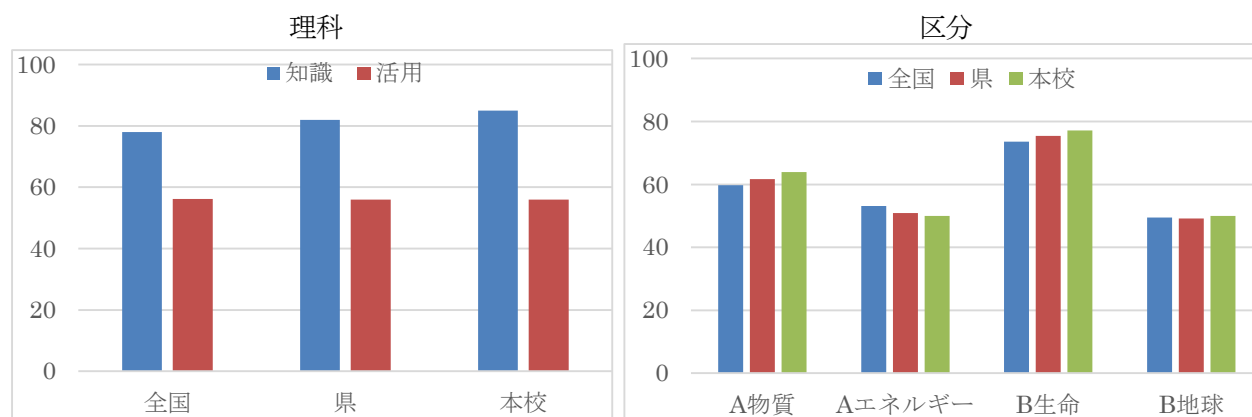
#### 【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、問題を解くのにどれくらい時間がかかっているのかを知るために、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そして、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてあげましょう。
- 生活の中で、たし算、ひき算、かけ算、わり算などを使う場面を見つけ、使うことで算数の楽しさや便利さを味わわせてください。

### 3 理科

#### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



基礎的な知識を問う問題は、全国・県平均を上回っているが、活用力を問う問題は、全国・県平均と同じである。区分等を見ていくと、A区分では「物質」、B区分では「生命」・「地球」が全国・県平均を上回っている。

#### (2) 成果と課題

##### A区分(物質・エネルギー)

- ・海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ問題は、正答率が高かった。2つの異なる方法の実験結果を分析して、考察することができていると考えられる。
- ・土地の浸食や電気の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する問題の正答率が低い。観察、実験の前に、児童から出された予想について、どのような実験結果であればその予想が確かめられたと言えるかを話し合う場を設定する必要がある。

##### B区分(生命・地球)

- ・野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ問題の正答率は、全国・県平均を上回っている。興味・関心や目的意識をもって小動物や生き物を飼育したり、観察したりすることができている結果だと考える。
- ・骨と骨のつなぎ目や堆積作用についての問題の正答率は高く、科学的な言葉や概念が身に付いている。学習を通して得た知識と、観察、実験の結果から言えることを比較して図や言葉で表現する活動を行ってきた成果だと考える。

#### (3) 学力向上のための取り組み

##### 【学校では】

- 実験や観察を充実させ、環境の整備を推進します。
- 理科の学習で問題解決を通して明らかになったことを日常生活に当てはめて考えるようにします。学習で学んだことと実生活との関連を図ることを目指します。
- 授業では、「変える条件」と「変えない条件」に分けるなど条件を整理して実験を計画できるようにします。また、実験結果などのデータをまとめた表やグラフから傾向を捉えて考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを記述できるようにします。

##### 【ご家庭では】

- 子どもが理科的なことに興味・関心を持ったときに、そのことにつきあったり、理解を示したりする大人や家族がいることは、理科好きな子に育つことにつながります。お子さんが科学や自然について疑問を持ち、その疑問について質問したり調べたりするときには、ぜひお子さんと一緒に考えてください。

#### 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

##### (1) 結果

##### 《生活習慣について》

調査項目	本校%	県 %	全国%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	69.5	77.1	77.0
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	88.9	89.7	88.8
朝食を毎日食べている。	97.2	94.4	94.5
平日読書を30分以上している。	41.6	40.4	41.1
家の人と学校での出来事について話をする。	80.5	77.4	80.5
今住んでいる地域の行事に参加している。	50.0	72.4	62.7

起床・朝食については全国平均を上回り、「早起き・朝ごはん」の生活リズムは概ねできているようである。就寝については全国平均を下回り、今後も家庭の協力を得ながら生活習慣を身につけていく。

読書については、30分以上読書をしている割合は全国平均を上回っているが、約20%が10分未満と読書の習慣が身につけていない児童もいる。

家庭での会話状況は、全国平均と同じ割合であった。今後も家庭と協力して家庭での会話促進に努める。

地域行事に参加している割合が県や全国平均より低い。巨勢小校区の行事は多いが、上級生になると参加が少なくなり、参加している児童は固定されている傾向がある。

##### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	県 %	全国%
平日3時間以上	13.9	8.0	12.5
平日2時間以上勉強している。	22.2	16.9	16.8
平日1～2時間勉強している。	25.0	39.7	36.9
平日0.5～1時間勉強している。	33.3	26.6	23.8
平日0.5時間より少ない。	2.8	6.5	7.4
平日全くしない。	2.8	2.2	2.5
家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	80.6	69.1	67.7
家で、学校の宿題をしている。	97.2	97.3	97.2
家で、学校の授業の予習・復習をしている。	72.2	60.4	62.6

学習時間は、約36%の児童が2時間以上と答えているものの、個人差が大きいと考えられる。

学習内容については、宿題をしている児童が97.2%と全国平均並みだが、予習・復習をしている割合は全国平均を上回っている。この習慣を継続させながら家庭学習の質や量を上げていく必要がある。

##### (2) 改善に向けての取り組み

###### 【学校では】

- 「早寝、早起き、朝ごはん。8時だよ、全員登校」の合言葉による指導や朝の全校立腰を今後も継続して行い、基本的な生活習慣が落ち着いた学校生活の中で身に付けていくように努めていきます。
- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを紹介する等して定着しつつあります。これから、低・中学年にも少しずつ広げていきたいと考えています。

###### 【ご家庭では】

- 早寝・早起きの習慣、朝ご飯を食べる習慣、学習する習慣は、中学校に向けた習慣として大切なことです。ご家庭でのご協力を一層宜しくお願い致します。
- 「家庭学習の手引き」や学級だより、子供たちが毎日宿題を書いている連絡ノートなどをこまめに見ていただき、家庭学習の習慣化を図ってください。また、自主学習への取組を励ましてください。